

**2008年度 図書館サービス・システム委員会 実務担当者研修会
ワーキングB 活動概要**

テーマ	ユーザビリティを主眼にした図書館ウェブサイトの評価と改善		
概要	利用者にとって使いやすい・アクセスしやすくなる図書館ウェブサイトの条件について検討し、サイトの改善を目指す。最終目標は、自館のサイトの評価と改善案の作成とする。		
講師	山田 稔 氏	所属	愛知淑徳大学図書館

事前	<p>1. 委員が提示したサイト評価に関連する文献(特記事項参照)を読み、理解を深める。評価項目は、図書館特有／一般に関する項目を、文献をもとに委員が設定。評価項目に修正の必要がある場合は、参加者間でやりとりして追加・修正する。</p> <p>2. 評価項目に基づき、研修会参加者の図書館サイトを、1人あたり2つ評価する。各自が評価した結果は、事前に担当委員に提出し、担当委員がまとめて当日の資料とする。この評価結果は研修会当日の報告書(発表資料)作成にも利用する。</p> <p>3. 参加者それぞれのお勧めサイト(図書館で／ウェブ全体で)について、評価項目もしくはそれ以外の視点で、どのような点が良いのか分析し、A4・1枚程度にまとめる。</p>		
当日	<p>【報告】 図書館ウェブサイトの現状についての小講義およびワーキングの活動報告(講師)</p>		
	<p>【1日目】</p> <p>1. ワーキング概要(事前・当日・事後)／作業内容／方向性／最終目標の確認 2. 進行・資料作成・発表・研修で改善対象とするサイトの分担確認 3. 参加館1サイトにつき10分程度で、それぞれ2名の事前評価の報告 4. 評価報告をもとに、各館の良い点・改善が必要な点の洗い出し</p>		
	<p>【2日目】</p> <p>5. 評価に基づき、課題対象のサイトの改善案作成(対象:岐阜医療科学大学) ■現状の問題点の確認／サービス内容やウェブで公開する項目の聞き取り調査 ■トップページに必要な項目の設定と分類 6. 発表資料作成</p>		
	<p>【発表】</p> <p>1. ワーキング参加者の図書館ウェブサイト評価結果(報告者:愛知工業大学 有田氏) 2. 図書館ウェブサイトの改善案(報告者:岐阜医療科学技術大学 武井氏)</p>		
事後	<p>■各参加者の図書館ウェブサイトを自身で再評価(自館の人間でしか評価できない項目があるため) ■評価項目と評価結果の公開 ■発表資料の修正と公開</p>		
そのほか (特記事項等)	<p>■事前活動および当日のワーキングで精読・利用した文献は以下の通り。 岡本真. 図書館サイトの現状:再点検の必要性と危機感の欠如. カレントアウェアネス, No.291, 2007. Detlor, Brian et al. Academic Library Websites: Current Practice and Future Directions. The Journal of Academic Librarianship. vol.32, No.3, 2006, pp.251-258. 長谷川豊祐ほか. 大学図書館トップページのガイドライン(第1.2版). 上田修一ホームページ(オンライン) URL:http://www.slis.keio.ac.jp/~ueda/univlibguide/toppageguideline.html. 佐藤千春ほか. 大学図書館トップページのガイドライン. 大学図書館研究. Vol.72, 2004, pp.1-9. 宇陀則彦. 電子図書館の質的評価(特集:図書館・情報活動と評価). 情報の科学と技術. Vol.57, No.8, 2007, pp.390-395.</p>		

委員※	高木 陽司	所属	中部大学附属三浦記念図書館
委員	濱口 庸介	所属	愛知大学名古屋図書館
委員	保富 洋子	所属	豊田工業大学総合情報センター

※ワーキング責任者